

第4期登米市自死対策計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方

No	項目	意見の概要	意見に対する考え方
1-1	取組	今後、独居高齢者の増加が考えられるため、病気になりにくい施策、地域コミュニティの維持、孤立の抑制、地域での雇用確保や職場での労働環境改善、地方経済の活性化、地方財政健全化への取り組みが必要と考える。	P16（2）孤立防止の支援やP19からP23の子ども若者への対策、働き世代への対策にも記載しておりますように、幼少期からの心と体の健康づくりを進め、高齢者が孤立することのないよう関係機関と見守り等の地域活動に努めます。また労働環境の改善についてはP15、16、雇用の支援についてはP17に記載しておりますとおり、関係機関と連携し取り組みます。
1-2	取組	自死しそうな人を見つけたり、相談する気にさせる積極的な発見と防止活動が必要で、悩みを抱えた人や自死に陥る可能性が疑われる人を見つけた際、関係機関へ橋渡す人材について示されていない。	人材育成については、P12にゲートキーパー研修会や傾聴自主グループ活動支援で対応いたしますが、多くの方々に悩んでいる人に「気づき」、「傾聴し」、「必要な支援につなぎ」、「見守る」ことができるように人材の育成に努めます。
1-3	取組	電話相談できない子どもや高齢者への対策が必要。	P13、P21、P23に記載したように、相談窓口のチラシやSOSカードを関係機関（学校、地域包括支援センターなど）をとおして配布するとともに、課題等が確認された際には継続的に安心してSOSが発信できるよう支援します。
1-4	取組	生活困窮者緊急支援が不十分。高齢社会で一人暮らしの増加、年金が安いことによる生活困窮、雇用がない現状の世帯へ、立ち直る体制が不十分。	P14（1）相談支援事業の充実やP16（3）安定した生活の支援において、相談があった際には、生活困窮対策部署とともに速やかに対応できるよう、連携を強化してまいります。
1-5	取組	相談を促すために、問題解決事例を示してはどうか。	P13（1）心の健康づくりや自死対策についての啓発にありますように、現在、相談内容を示したチラシを作成し関係機関、関係部署に設置しているところではありますが、今後はより多くの方に周知できるよう情報発信に努めます。

#### 第4期登米市自死対策計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方

No	項目	意見の概要	意見に対する考え方
1-6	取組	家庭問題解決のための別居、別居に伴う借家支援など具体的な支援を考えておく必要がある。	P17 生活困窮者に対する相談にも記載しておりますとおり、登米市自立相談支援センターでは、家庭問題だけでなく、様々な事情により、別居が必要となったり、住まいを失った際には、入居のサポート支援や生活支援を行う事業が実施されています。
1-7	取組	相談対応職員の負担軽減。	いただいたご意見のとおり、相談対応職員の支援も重要な対応の一つと考えております。相談を受ける職員が、研修会やスーパーバイズ事業などを活用しながら、ひとりで抱え込み、孤立することがないように努めます。
2-1	計画の数値目標	自死は本来「0」であってほしいと思う事柄。「0」以外は行政が許容している印象を受けるため、「本来は“0”であってほしいという趣旨の旨を記載できないか	いただいたご意見を参考に、本文に「誰も自死に追い込まれることのない登米の実現を目指す」旨を追記します。
2-2	原因及び動機	国の資料から作成しているようだが、原因がこれだけ明確になる理由	本計画に使用しているデータは、厚生労働省自殺対策推進室において、警察庁から提供を受けた自殺データに基づいて、再集計されたものです。自死の原因・動機に係る集計については、家族の証言等を基に作成されたものです。
2-3	現状	「自殺死亡者数が減少した翌年以降には増加する傾向にある」と記載されているが、全国や県にはその傾向はない。データの取り方の問題か登米市に限った問題か、どのように分析しているか。	登米市においては、これまでのデータでみると、自殺死亡率が減少した平成23年と平成30年の翌年には大きい増加が見られましたが、ご指摘のとおり、令和3年度は最も自殺死亡率が減少したにもかかわらず、大きな増加がなかったことから、ご指摘の一文は削除します。

第4期登米市自死対策計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方

No	項目	意見の概要	意見に対する考え方
2-4	現状と課題	各項目の数値は全国と登米市だけを比較して、どの文章にも「全国より高い」という表現がされている。県内の他市町村に比べても高い特別な事情があるなら大きな問題。県のデータや東北全体などのデータも出して地域性はないか、登米市だけ高いのか、わかるように計画を考察してほしい	P4（図3）性別・年代別の自殺死亡率に宮城県のデータを追加し考察した結果、男性の20歳代は県平均よりも低かったが、その他は全国や宮城県平均よりも高かったことから、本文の表現についてはそのままとします。
2-5	計画の趣旨	今回の計画は、前期と何が違うのか、文章を読んでもわからない。国が新たに示した、ではわからない。	P1計画の趣旨の下方に、令和4年10月に示された自殺総合対策大綱の要約を追記します。 ※自殺総合対策大綱（令和4年10月）の要約 これまでの取り組みに加え、「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」、「女性に対する支援の強化」、「地域自殺対策の取組強化」、「総合的な自殺対策の更なる推進・強化」が掲げられ、地域の実情を踏まえ、計画策定に盛り込むこととされました。